

# 赤楽の銘は「薄紅葉」

五月二日(土)に「左千夫茶会」を開催しました。天候にも恵まれ多くの参加者がお茶を堪能して帰られました。

「お茶会」は平成13年度から始まり、今年で9年目となります。

「お茶会」のきつかけは左千夫が茶道に通じ、恩師 正岡子規から「お茶博士」と名付けられるほど堪能であったことから左千夫顕彰事業の一つとして実施しています。

歴史民俗資料館では左千夫の茶道具をたくさん収蔵しています。展示中の道具から逸品をご紹介します。

今回は「赤楽」茶碗を紹介し、楽焼は本来楽家(桃山時代初代長次郎から始まり現在は十五代目)歴代の作品の呼称です。色も赤の他に黒・白があります。

茶道界では「一楽二萩三唐津」と言われ大変珍重され

ています。また、「赤楽」収納箱蓋裏に墨書が見られます。

空中信楽

茶碗

薄紅葉

不羨(花押)

空中信楽とは本阿弥光悦(一五五八〜一六三七)の孫光甫(一六〇一〜一六八二)が作成した作品を言います。光甫が空中斎と号したところから名づけられました。

赤楽の銘は「薄紅葉」。

箱書きしたのは不羨、江戸千家流開祖の川上丕伯(一七一九〜一八〇七)です。

左千夫は江戸千家宗匠式守蝸牛と親交があり、左千夫の茶道は江戸千家流に近いと考えられます。(注1)

この「赤楽」を左千夫がどのような手立てで手に入れたか

は不明ですが、式守蝸牛が深く関係していることは間違いないと思います。



写真一 赤楽 箱書き

茶道に関する短歌はたくさんありますが、平成二〇年度に購入した短冊を紹介します。



写真二 短冊

明治三八年

赤らくの色の潤ひ

言うに云えず絵にも  
うつせぬ埃にしありけり



「赤楽の色の潤いが美しすぎて言うに居えず、絵にも書けない」赤楽に対する賞賛を歌っている事がわかります。赤楽を手に入れた左千夫の喜びが伝わってきます。是非、「薄紅葉」の美しさをご覧ください。今後とも左千夫の茶道具を紹介いたします。

(注1) 参考文献

「茶人 伊藤左千夫」

昭和六十年九月三十日

著者 今関久義

問

歴史民俗資料館

☎(82)2842